

令和7年1月24日

世田谷区立太子堂小学校
校長 廣瀬 維謙 様

世田谷区立太子堂小学校
学校関係者評価委員会
委員長 並 木 正

令和6年度 学校関係者評価委員会の報告書

学校関係者評価とは、保護者、地域住民などの学校関係者により構成された学校関係者評価委員会が行う評価のことです。太子堂小学校の学校関係者評価委員会は、次のメンバーで構成されています。

委員長	並木 正	聖路加国際大学客員教授（学識経験者）
委員	杉山 美以子	学校支援コーディネーター（元世田谷区小P連会長）
委員	山田 善久	地域住民（卒業生）
委員	堀江 綾子	元PTA役員（保護者）
委員	小泉 千春	前PTA役員（保護者）

以下に、太子堂小学校の学校運営や教育活動についての関係者アンケート調査結果、教職員による自己評価の結果、学校関係者評価委員会での意見交換、及びそれらを踏まえた改善方策をもとに評価した結果を報告します。

学校生活はほとんどがコロナ禍以前の学校生活に戻っています。学校行事もすべて実施されています。運動会や展覧会も実施され、学校に子どもの声が響くようになってきました。インフルエンザやコロナによる学級閉鎖など油断はできない状況にあります。1人1台のタブレットが配布されて、その活用が進んできたように思います。また、学校が実施する教育活動についても地域、保護者への説明責任を果たすとともに協働する必要があることが学習指導要領で示されており、社会に開かれた教育課程と言われています。現在の学習指導要領では、主体的な学習への取り組みが重視されており、自ら学ぶ児童をどう育成するかがタブレットの活用も含めて学校の課題となっています。タブレットを家庭学習や調べ学習、学習のまとめ等の活用できる場面で使うとするのが、適切ではないでしょうか。タブレットに児童が慣れるに従い、活用の場面も増えると考えます。

また、子どもを囲む状況も大きく変化しています。子ども家庭庁が開設され、「子ども基本法」が制定されています。最近のニュースでは昨年度のいじめの件数が増加して、子ども家庭庁と文科省では専門家会議を開いていじめへの対応を検討すると報道されていました。子どもの人間関係の複雑化は、大人の社会の反映かもしれません。新聞では、児童による児童の加害行為を取り上げた記事もあり、このようなことは絶対にあってはなりません。また、教育関係では、昨年暮れに文部大臣が次の学習指導要領について中央教育審議会に諮問しました。大学入学共通テストでも現行の学習指導要領を踏まえた問題がだされています。

このような社会の中で、学校は児童の教育の充実を目指して、家庭、地域と一体となって教育を進める必要があります。教育には不易と流行があると言われていますが、生徒の学ぶ意欲を高めることは不易ですし、タブレットの活用も流行から不易へと変わっていくと思われま。先生方の児童への指導の方策は流行の部分もあるかと思いますが、児童との関係作りは信頼関係を基本にした教育の不易と言えるでしょう。学校関係者評価委員会では、学校の課題解決に向けて、少しでも役に立つものになればという思いで、アンケートの分析を行いました。

1 学校関係者評価アンケートの回収率について

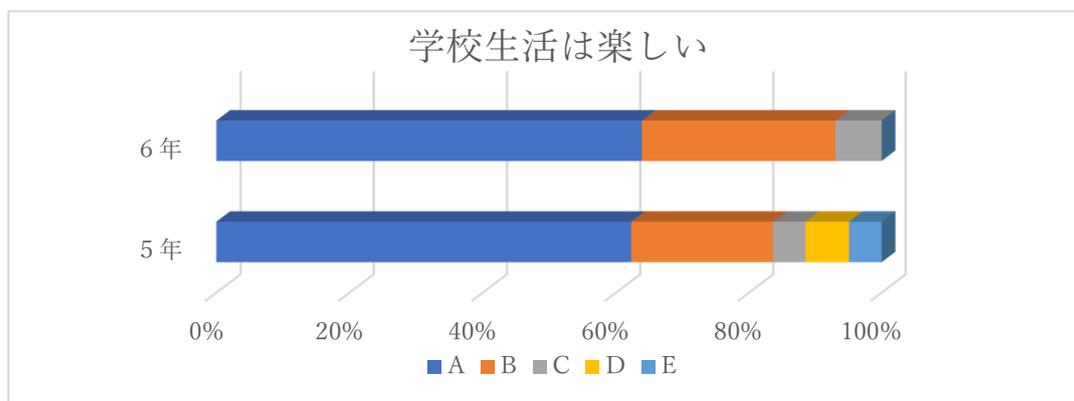
	児 童	保 護 者	地 域
配布数	4 3 0	3 6 3	3 3
回収数	4 0 3	2 2 0	2 3
回収率	9 3 . 5 %	6 0 . 6 %	6 9 . 7 %

今回のアンケート調査では、保護者からの回収率は昨年と比べてほぼ横ばいです。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。

2 アンケート調査の結果から

(1) 学校生活は楽しいかどうかについてのアンケート結果

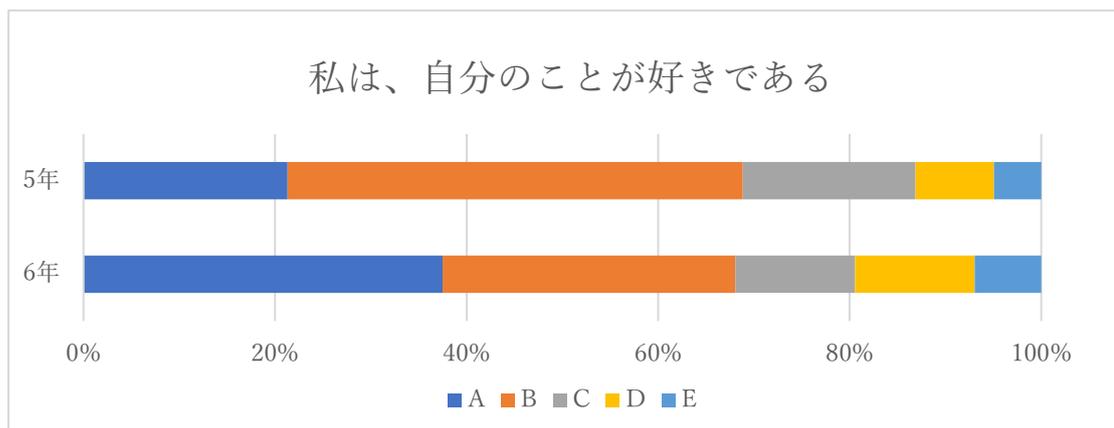
児童へのアンケートは5, 6年生のみですが、80%を超える児童が学校生活を楽しいと感じており、大変良いことだと思います。学校の教育活動を肯定的に捉えていることが伺えます。このことを裏付けるのは保護者がお子さんの学校生活をどう見ているかということです。

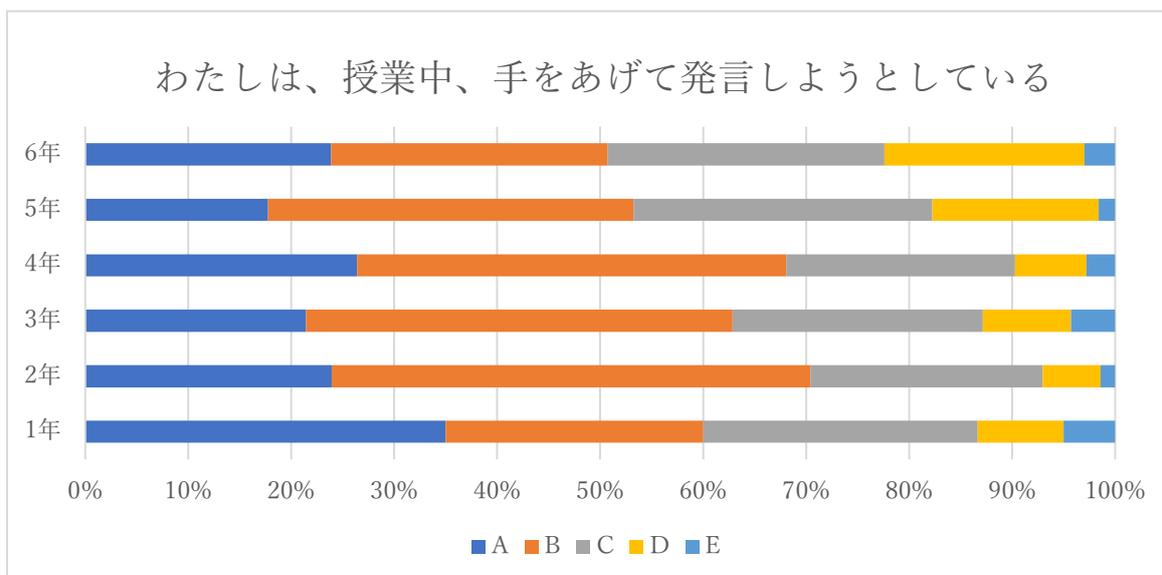


保護者向けアンケート項目の中に「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」というのがあります。アンケート結果のグラフは載せませんが、「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」という問いに80%を超える保護者がAのとても思う、Bの思うに回答しており、学校生活への満足度が高いことが分かります。

(2) 児童の自尊感情についてのアンケート項目

自尊感情を直接測ることは難しいのですが、このアンケートの中から2つを抽出してみました。一つは「自分のことが好きである。」ですが、これは自己肯定感をしめして、自尊感情に含まれている感じがますが、5, 6年生の結果しかありません。もう一つは「私は、授業中、手をあげて発言しようとしている。」です。これは、自分に自信があるから、意見を述べられるので、まさに自尊感情を表していると言えます。





5年生と6年生の比較では、昨年は6年生の自尊感情が下がっていると述べましたが、今年度は、5年生、6年生ともA、Bの合計の割合がほぼ同じ68%で、Aの割合が高いのは6年生ですから、6年生の方がやや自尊感情が高いと思われます。

「私は、授業中、手をあげて発言しようとしている」については昨年度は学年が上がるに従い、Aの「とても思う」が減少していきましたが、今年度はDの「思わない」が5、6年生と1、2、3、4年生で分かれているように思います。それにしても、全学年で非常に良く取り組まれているように思います。主体的な学びが求められている中、児童が積極的に授業に取り組んでいる様子が伺えます。

(3) 教員のアンケートで評価の低かった項目

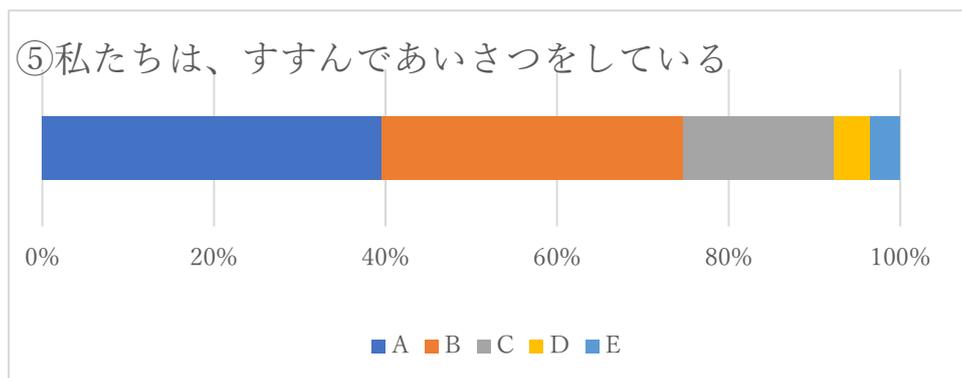
先生方へのアンケート38項目の中で、Aとても思う、B思うの合計が50%以下の項目が4つありました。それは次の4つの項目です。

- ⑰私は、子どもが家庭学習に進んで取り組んでいると感じる。
- ⑳私は、地域のことをよく知っていると思う。
- ㉒私は、本校の子どもにあいさつの習慣が身についていると思う。
- ㉓私は、本校の子どもが中学校の先生や中学生を身近に感じていると思う。

家庭学習については、宿題をやってもらうだけでなく、自分で何か調べたり、考えたりしている内容があったら、アドバイスして、褒めてあげる必要があるでしょう。児童が家庭での学習内容を積極的に先生に示したりしないかもしれませんが、自分の主体的な学びを表現できる場が教室にできると良いと思います。

地域については、地域にどのような神社や公園があって、児童が遊ぶ場所はないか、学区の散策をしてから帰るとか、お祭りや節分などの行事で、どのような児童が集まっているかを見に行くなどの工夫がないと、なかなか地域を理解するのは難しいと思われます。私の近隣の神社でもお祭りの際には境内にPTAの詰め所があって、学校の先生方が来られていました。私も新星中（今は三宿中）の教員時代には、池尻神社、駒繫神社、三宿神社のお祭りに行きました。行くと子どもの実態がよくわかりました。

挨拶の習慣が身についているかについては、児童全体のアンケート結果は以下の通りです。



A「とても思う」 B「思う」の児童が70%を超えているので、先生方が積極的に児童に挨拶すれば、さらに向上する物と考えます。

中学校の理解については、太子堂小は太子堂中との連携を重視していると思いますが、高学年担当にならないと、なかなか中学校との連携は意識されないかもしれません。小学校の先生方も中学校の学校公開や道徳授業地区公開講座に行かれて、戻られて校内で報告すれば、ある程度のことは周知されるのではないのでしょうか。

3 まとめ

今回のアンケートでは、児童、保護者とも学校生活の楽しさを味わえるようになって良かった上に児童の積極的に手を上げと取り組もうとする意欲が明らかになって良かったと思います。学校は学習を学ぶ場であると同時に集団での活動を学ぶ場でもあり、その集大成が学校行事です。運動会や展覧会で児童が活躍する様子が見られて、とても良かったと思います。今回、アンケート結果で、先生方の評価が低かった項目を載せましたが、先生方から、地域とのつながりを作ることが、今後、学校の取り組みを支えられている地域の方々がいることを意識していただければと思います。

学習面では、積極的に授業に取り組もうとする意欲が高いことがアンケートから分かりました。この意欲をどう、主体的に学びにつなげていくかが大きな課題と考えています。校長の経営方針の下、教職員一丸となって課題解決に向けて取り組まれることを願って、まとめいたします。